

国際拠点空港の整備及び管理運営に関する 経営形態の見直し(試案)について

平成13年9月
航空局

基本方針

国際拠点空港について、その整備と管理運営を分離し、管理運営を行う主体については、民営化。

現状と課題

国際拠点空港の整備

- 国際拠点空港は我が国のライフライン
- 国家的観点、都市再生の観点から、国際拠点空港の戦略的整備は重要
- 整備は未だ途半ば、空港施設の保全・機能改良も不可欠

特殊法人等改革

- 官と民の役割を見直し、「民に委ねられるものは民に」
- 特殊法人が大きな役割を果たしてきた国際拠点空港の整備及び管理運営についてのあり方の見直しが必要

官民の役割分担の再構築

「国際拠点空港の整備」・「特殊法人等改革」という二つの課題に対応するため、整備事業、管理運営事業について官民の役割分担を再構築。

整備、保全及び機能改良

- 国家的観点、国際航空政策との整合性を国として確保
- 大規模投資、長期の資金回収を要するため、国が主体的に推進

管理運営

一定の必要な経営環境を整えた上で民営化を目指す。

<条件>

- ・過大な債務負担の軽減
- ・各空港間の競争条件の平準化
- ・騒音対策等への対応

新たな国際拠点空港の整備及び管理運営の基本的考え方
=「上下分離」

上物法人＝民営化
(空港の管理運営)

各空港ごとに空港を一体的に管理運営

下物法人＝公的法人
(空港の整備・保全
機能改良＋騒音対策等)

国、地方公共団体の支援を受け、空港
整備を推進

「上下分離」のイメージ

